



食品ロス削減に向けての 取組事例について

平成30年10月30日

京都市ごみ減量推進会議

京都市ごみ減量推進会議とは？

設立 1996年11月（2016年，設立20周年）

目的 市民・市民団体・事業者・事業者団体・専門家・京都市などが対等の立場で参画し，お互いの立場を理解しながら，自主性とパートナーシップを基本として，ごみ減量に関する意識の高揚を図るとともに，地域でのごみ減量に関する自主的な取組を促進することにより，京都市のごみを減らし，環境を大切にしまちの暮らしの実現に寄与することを目的とする。

会員数 520団体（2018年8月1日現在）

手を取りあって ごみを減らそう！
京都市ごみ減量推進会議



京都市ごみ減量推進会議

地域ごみ減量 推進会議

自治会等の団体を
母体に、各地域で
ごみ減量活動を
推進する団体

206 会員

市民
(市民団体等)
45 会員

専門家
大学等
25 会員

事業者等
201 会員

事業者団体
42 会員

京都市



2R活動



講習会



リサイクル



フリーマ

パートナーシップを活かして事業を展開！



地域の住民による、地域に根差したボランティア活動

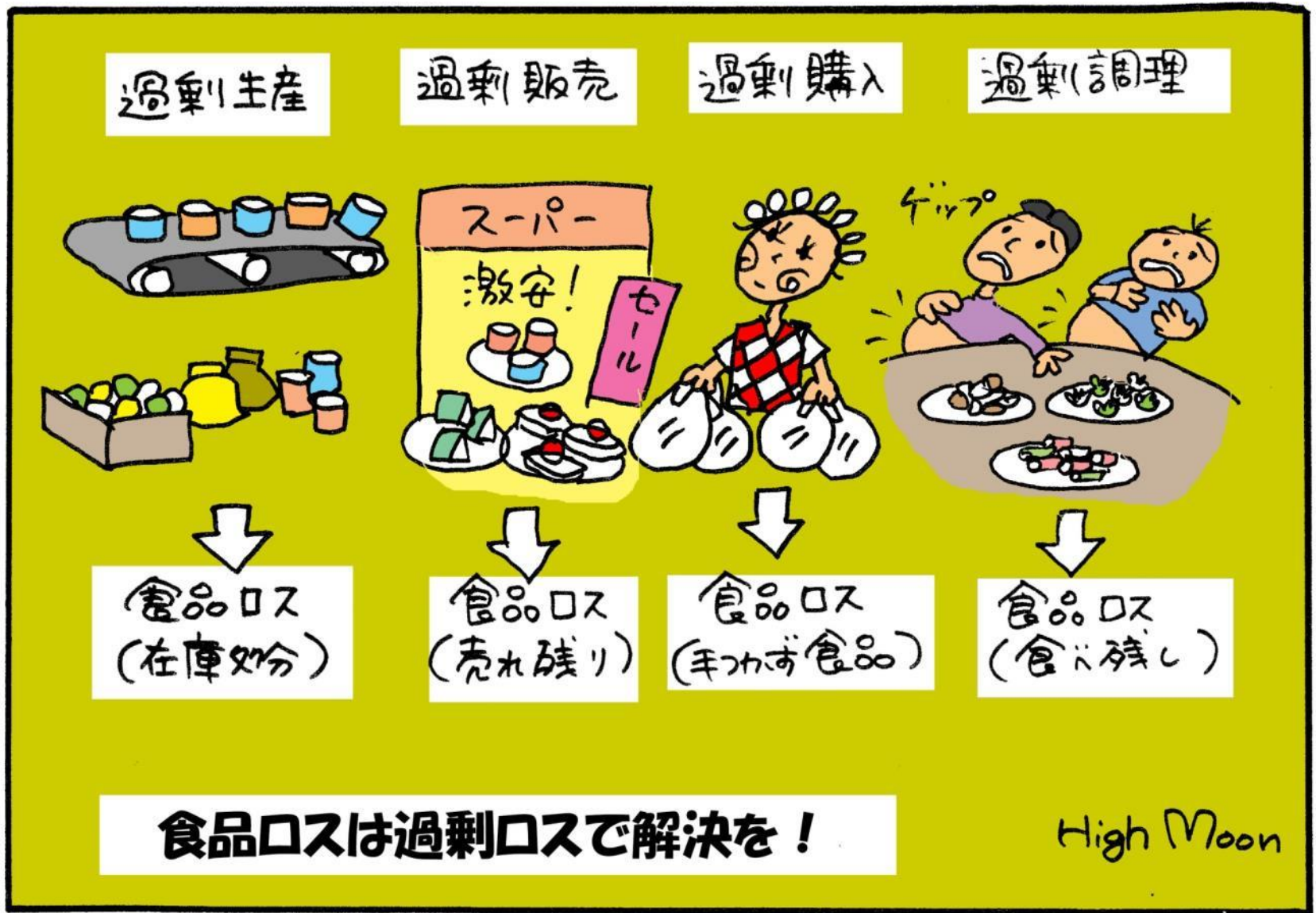
ごみ減量の意識の浸透や行動を地域住民や事業者に促し、生活スタイルや事業活動の見直しを進める活動を行っている。

具体的な活動

- 学 ぶ** : 施設見学会への参加,
環境学習会の開催など
- 再利用の促進** : フリーマーケットの出店など
- 資源回収** : 古紙回収等,
使用済てんぷら油回収など
- 啓発活動** : レジ袋削減の呼びかけ,
広報誌の発行など
- そ の 他** : 清掃活動, 落ち葉の堆肥化,
イベントのエコ化など



左京区での活動の様子



作者註: 流通における食品ロスを減らすことが大切です

わが国の食品ロスの状況

- 年間646万トン
 - 事業系：357万トン
 - 家庭系：289万トン
- 世界の食料援助量（約320万トン）の2倍
- 年間一人当たり51Kgのロス（米の消費量に相当）
- 消費者ニーズを優先し、必要なものを、必要な時に、必要なだけ、供給しようとするれば、過剰に製品を用意することになり、結果的に食品ロスにつながる。
- 過剰な食品流通の見直しが必要である。

京都市ごみ減量推進会議の食品ロス削減に向けての取組

会報誌 ごごみ日和での発信
セカンドハーベスト京都や京都生協，カナダ トロント市の取組等，食品ロスに関連した記事を随時掲載。食品ロス削減に向けての周知を積極的に行い，実践の輪を広げている。



カナダ トロント市の取組を学ぶ同志社大学小谷ゼミの皆さん

イベント開催（平成28年度）
『食べものどうなるの？ フードロスと未来の食環境』開催
京エコロジーセンターと共催し，企業や市民団体等による食糧問題に関係したパネル展示や，エコクッキングを体験できるコーナーで食品ロスの啓発活動を行った。



食べものどうなるの？
フードロスと未来の食環境の様子

地域ごみ減量推進会議の食品ロス削減に向けての取組

エコクッキング

「京エコロジーセンター」などで開催している、食材を無駄のなく使い切る料理方法を学ぶ教室に地域ごみ減6団体96名が参加（平成29年度）、それぞれの家庭から食品ロスを減らす取組を実施



施設見学会

行政区ごとに地域ごみ減量推進会議が自発的な施設見学を行う中で、京都市中央市場の「あじわい館」を見学するなど食品ロスに関わる学習を実施

フードライブ

地域で開催する祭にて、セカンドハーベスト京都協力のもと、余分な食料品の回収を実施（3行政区）

